

10. 米国陸軍病理学研究所第一次返還資料

米国陸軍病理学研究所第1次返還資料については広島大学原爆放射能医学研究所の報告（注1）に詳しく述べられている。その概略は、昭和20年8月9日、長崎に原爆が投下された直後、原爆の破壊力や傷害を調査するため、米国や日本の科学者によって各種の調査団が組織された。9月には「原爆の効果に関する合同調査団」（The Joint Commission for the Investigation of the Effects of the Atomic Bomb in Japan）が組織され、より医学的な立場から傷害調査と資料収集の作業が進められた。日本の科学者も加わった日米合同調査団であったが、実質的には米国側の指導の下に行われた。医学標本、カルテ、各種の記録と写真など広い領域にわたって膨大な被爆資料が集められた。しかし、これらの資料は日本で分析されないまま梱包されてアメリカに持ち帰られた。その後これらの資料は陸軍病理学研究所（The Armed Forces Institute of Pathology: AFIP）を中心に整理され、分析されていることが知られるようになった。また、ABCCで解剖された被爆者の病理標本や記録がアメリカに送られ陸軍病理学研究所に保存されていることも明らかとなった。

これらの資料の返還の希望がかない、昭和48年5月に日本に届いた。資料の内容は次の表のようであった。

資 料	総 件 数	長崎関係の件数
臓器標本* ¹	6 8 1	6 4 4
パラフィン標本* ¹	9 5 3	6 8 2
顕微鏡スライド標本* ¹	1, 7 6 9	1, 2 0 9
剖検記録等記録ホルダー* ²	1 7, 9 9 3	8, 9 9 5
写真* ³	1, 8 7 9	6 4 7
その他	3	3
合 計	2 3, 2 7 8	1 2, 1 8 0

（件数は返還リストに基づき、実際の件数と多少異なる。）

*¹ 原爆投下から3～4カ月の間に原爆で亡くなった人を解剖したものも含まれている。

*² 解剖記録（英語訳）。剖検例のほとんどが日本人医師によるもの。氏名、年齢、被爆地、爆心地からの距離、死亡日時が記入されている。

*³ 当時の日本人カメラマンが撮影したものを米軍が接收した写真が大半。航空写真は米軍によるものである。また、カラー写真は、当時日本になかったのですべて米軍によるものである。

(注1) 原爆被災学術資料に関する報告，AFIPからの返還資料について(第1次報告)。広島大学原爆放射能医学研究所，1973。

A. 病理関係資料

1. 保存実数

病理関係資料は 8,968 例が保管されており、診察例（7,479 例）と解剖例（963 例）が多い（表10—1）。72 例はデータ用紙が含まれてなく、また、26 例はファイル用紙も全くなかった。診療は昭和20年の9月頃のデータが多く、この中には後年に剖検されたものも含まれている。そのような症例も「診察例」として原爆資料センターのファイルには登録されている。

剖検例は昭和36年5月までに解剖された症例が収録されているが、昭和20年8月～12月迄の症例70症例（男29，女40，不明1）であり、特に1ヶ月以内の症例はそのうち23症例（男11，女12）が見られた。ところが、この症例数は木下良順・三宅仁の報告（「原子爆弾災害調査報告集」総括編，pp. 79—105）の68体と一致しない。この不一致に関して、膨大な資料の中から一例ずつを照合していくやり方で確認照合作業を現在進めているが、被爆直後の混乱した状況の中での困難を乗り越えて行われた記録だけに氏名等も不明のものなどがあり、その完了は今後の努力に待ちたい。また、このようなごく初期の解剖例を除いては、ほとんどの症例が長崎大学医学部の解剖登録と一致するが、その記録に認められない症例も含まれており、解剖年月日の不明な症例を含めて現在その実態を明らかにする作業を進めている。また、被爆地が広島になっている症例も数例含まれている。Acc. No.（登録番号）が240,000番台は長崎の症例で、250,000番台は広島のものと考えられるが、250,000番台のものも4件含まれている。

2. 保存形態

a. 臓器：Stückビンに入れられた臓器は原爆資料センター3階の病理標本管理室のスチール棚に整理されて保存されている。貴重な資料であることから10%ホルマリンは2年毎に交換して保存されている。

b. パラフィン・ブロック：各症例毎に紙箱に入れられ、原爆資料センター1階病理標本作製室の木製引出し棚に収納されている。

c. プレパラート：各症例毎にスチール製のプレパラート・ボックスに収納され、原爆資料センター1階病理標本作成室におかれている。なお大型切片の標本は木製引出し棚（ブロック収納箱）に納められている。

d. ファイル・プロトコール（基本情報）：8,942部のファイル用紙はAcc. No. 順に整理され、2階原爆資料保管室のスチール製ファイル・ボックスに収納されている。

表10—1. 病理関係第一次返還資料

資 料	記録ファイル	臓器	パラフィン・ブロック	プレパラート
診察例	7,479 例	19 例	30 例	1,085 例
剖検例	963	281	327	891
実験例	428	319	329	338
ファイルなし	(26)	2	5	20
データなし	72	34	1	42
合 計	8,968	655	692 (26,526 個)	2,376 (66,729 枚)

(昭和61年12月現在)

3. データー分類記録

返還資料はデーター・ベース（データー・ボックス，NEC-9801）を用いた整理用紙に分類して収納されている。

4. 資料の閲覧及び検索

貴重なデーターであるため、広く役立てたいが、プライバシーの守秘ということから、その一般閲覧にはおのずと制約を設ける。利用にあたっては、原爆資料センター長の許可を必要とする。

検索は病理部設置のパソコン（PC-9801 E）により必要な Acc. No. の臓器（A-，B-），ブロック（B-），プレパラート（P-，B-），基本情報（F-）の分類番号をもとに各症例の該当資料を入手できる。

5. 今後の検討事項

1) 長崎例として返還された症例の中に、明らかに広島例と考えられるものが含まれている。それら広島例と疑問例を種々の資料と照合することによって明確にし、広島大学原医研へ転送する必要がある。

2) 診察例及び剖検例として登録されたもののうち、長崎大学医学部および長崎市内の各病院で解剖されている症例があるので、原爆資料センターにすでに登録されている剖検例と照合して連結する必要がある。

3) 現保有の各種データーとの連結を行う場合、資料によって被爆距離が異なっている場合がある。これをどの様に統一していくかの検討が必要である。特に、被爆手帳と剖検例の連結の場合問題となる。

B. 写真関係

写真は2文字のアルファベットと数字で分類されており、次の撮影内容が含まれていた。また、アルファベットのイニシャル〔N〕は長崎を意味する。

記号	撮影内容
NB	建物の被害 (Building)
NC	統計表
NE	熱線による影 (Effects)
NF	植物への影響
NG	全般的破壊状況 (General)
NH	救援活動
NM	病理組織 (Medical)
NP	傷害 (Patients)
NS	剖検臓器 (Specimens)

本資料では、次のような分類に分け、さらに同じ内容のものをまとめた。(カッコ内の数字は枚数)

1. 傷害および医療活動 (123)
2. 剖検臓器 (32)
3. 病理組織 (102)
4. 統計表 (18)
5. 植物への影響 (58)
6. 建築物破壊 (151)
7. 被爆状況 (152)

なお、〔パノラマ〕とあるのは、ある一地点から、角度を変えてパノラマティックに撮った組写真である。

内 容	枚数	写 真 番 号
1. 傷害および医療活動		
1. 火傷	60	NP 100-103, 105, 108-111, 114, 116, 119-124, 127-132, 134-147, 149-153, 156-158, 160
2. 脱毛	22	NP 104, 106-107, 112-113, 115, 117-118, 125-126, 148, 154-155, 159
3. 紅斑, 水泡, 腫大	2	NP 133
4. 焼死体	10	NH 102, 111, 113-116, 122, 124, 132-134
5. 火葬風景	1	NH 135
6. 救助活動	8	NH 110, 112, 117, 121, 127-131
7. 仮診療所 (新興善国民学校)	5	NH 100-101
8. 救護所 (道の尾駅前)	6	NH 106-109, 139
9. 大村海軍病院	9	NH 136-138, 140-145
2. 剖検臓器		
1. 腸管	7	NS 181, 301, 305, 307
2. 骨髄	9	NS 187, 196, 303, 306
3. 心臓	6	NS 302
4. 腎臓	2	NS 203, 304
5. 膀胱	2	NS 300
6. 喉頭の図	4	NS 309-310
7. 出血性網膜炎の図	2	NS 308
3. 病理組織像		
1. 骨髄像	89	NM 103-104, 106-132, 134-138, 141, 149-157, 164
2. 末血像	8	NM 133, 139-140, 158, 163
3. 消化管の組織像	2	NM 159-160
4. 横紋筋, 肝組織	2	NM 161-162

内 容	枚数	写 真 番 号
5. 胸骨骨髓の有核細胞の分類	1	NM 105
4. 統計表		
1. 障害, 症状発生率	7	NC 103, 107 ; NP 166-170
2. 白血球, 赤血球数の分布	4	NC 108 ; NM 100-102
3. 胸骨骨髓生検結果	7	NM 142-148
5. 植物への影響		
1. 斑の入った植物の葉	14	NF 100-101, 110-111, 113-115, 123, 127, 142, 146-148 ; NG 156
2. 変異した植物の葉	38	NF 102-109, 112, 116-112, 124-126, 128-141, 143-145, 149
3. 災害を受けた樹木	6	NG 157-162
6. 建築物破壊		
1. 長崎医科大学	5	NB 108, 403, 405
2. 長崎医科大学附属病院	24	NB 105-107, 116, 401-402, 404, 447-450, 466-471 ; NG 212
3. 城山国民学校	23	NB 308-316, 323, 408, 460 ; NG 185- 193
4. 鎮西学院	17	NB 113, 300-307, 409, 412-415
5. 山里国民学校	5	NB 442-446
6. 淵国民学校	7	NB 317-322, 406
7. 瓊浦中学校	6	NB 115, 416-419
8. 三菱工業青年学校	7	NB 109-112
9. 浦上天主堂	22	NB 100-104, 117, 451-456, 464-465
10. 三菱兵器大橋工場	13	NB 400, 420-429, 438-439
11. 三菱製鋼長崎工場	12	NB 410, 433-437, 440-441, 457-458, 461-462
12. 山王神社	6	NG 194-199
13. その他	4	NB 406, 411, 432, 459

内 容	枚数	写 真 番 号
7. 被爆状況		
1. 航空写真	4	NB 300; NG 214-215; NP 163
2. 大村海軍病院からみた原子雲	1	NG 110
3. [パノラマ]医科大学附属病院の全景	5	NG 142-146
4. [パノラマ]爆心地近くの丘より北西 方向を望む全景	5	NG 127-131
5. [パノラマ]谷の西側から望む全景	5	NG 117-121
6. [パノラマ]城山国民学校から望む全 景	5	NG 122-126
7. [パノラマ]鎮西学院北側の丘から 北東方向を望む全景	5	NG 132-136
8. [パノラマ]鎮西学院から東南方向を 望む全景	5	NG 137-141
9. [パノラマ]三菱兵器工場の全景	5	NG 111-115
10. [パノラマ]浦上駅ホームから東方	7	NG 147-153
11. 爆心地付近	45	NB 430-431, 436; NG 100, 104, 106-109, 116, 165-184, 200-204, 211, 213; NH 115, 118-120, 125-126, 129
12. 長崎駅, 中町教会付近	12	NB 114, 122; NG 102, 154-155, 163-164, 207-210,
13. 熱線によって作られた影	15	NE 100-107
14. 動物の死骸, 骨	4	NH 103-105, 123
15. 防空壕入口	5	NB 328, 329; NH 146
16. 仮設住宅	7	NB 324-327
17. 破壊をまぬがれた長崎市内	17	NB 118-121, 123-130; NG 101, 103, 105